令和6年度豊明市協働推進委員会議事録

日時	令和7年3月21日（金） 15:00～17:00
会場	豊明市共生交流プラザ 北館3階 活動室1
出席者	委員：三矢勝司、安井昌代、兼子幸夫、川津昭美、三浦みさ子、森田峻介、古川幸子（以上7名） 豊明市：共生社会課長、共生社会課長補佐、協働推進担当係長、担当職員（2名） 傍聴者1名

議 事

1 課長挨拶

2 委員長挨拶

3 前回の振り返り

事務局より資料1-1に基づき説明

4 協議事項

◆第2次豊明市協働推進委員会の進捗について

○カラット利用状況 及び カラットにおける地域づくり

事務局より資料2-1、2-2、2-3に基づき説明

— 質疑・意見交換

・資料2-1は自らも作成協力したが、現在は直線的ではなく環状的な解決を求められる。次回作成する時はその様に検討したらどうか。

・不登校などによる居場所の無い子どもの問題は増加しており、居場所作りはとても意義がある。居場所作りの次のステップとなる登校支援などの過渡的な試みは行っているか。
→家庭や学校以外で社会とつながることが大切だと考えています。カラットでは、日中の子どもの居場所づくりを行っており、以前学校だった場所が学校の補完的な役割を担っています。登校については教育部門だけではなく共生社会課としても令和7年度よりアプローチをする準備を進めています。

・報告された活動内容の周知はどのように行っているのか。

→カラットのSNSと、活動している人のSNSや口コミになります。

・団体活動にとって決まった場所、時間で活動できることは、「いつもここで」という安心感が生まれるのでとても重要。こういった場所が用意されていることに感謝している。

・だれしものが困難を抱えている中で繋がれる場所がある、ということがまちづくりでも大切である。

・共生交流プラザの活動は、1年目で活動の発生、2年目で気づき、3年目で行政などと協力して活動する結びつきが生まれ変化してきている。この流れの継続には担い手がいてこそであるので、一般の人を巻き込んでいくのが今後の課題である。

◆重層的支援体制整備事業について

○カラット利用状況 及び カラットにおける地域づくり

事務局より資料2-4に基づき説明

— 質疑・意見交換

・豊明市の重層的支援体制は一般的なのか、それとも先進的なのか。

→福祉部門ではなく、まちづくり部門が担当しているのは全国で例を見ない先進的取組です。空き家問題など福祉だけでは解決できない問題なども顕在化しており、まちづくり部門が動き、つないで支えています。

・困っている人などを把握している方法は。

→民生委員や地元業者、地域団体などから教えてもらっています。複数のセーフティネットにより気付けるようにしています。

→支援策についても複数用意できるようにしており、気づいた後に手立てとして活用できるように取り組んでいます。

・活動団体は横のつながりが強いので、そのつながりを吸い上げられると良い。

◆R7年度以降 豊明市協働推進委員会及び豊明市地域共生社会推進指針について

○カラット利用状況 及び カラットにおける地域づくり

事務局より資料3-1、3-2に基づき説明

— 質疑・意見交換

計画について

・1つの指針にすることについて、今の計画方法が良いとは言わないが、市民が集まって話し、反映できることが大事である。今後もこういった機会は設けられるか。

→委員会をなくすのではなく、ビジョンとして行政効果を早く細かく確認できるように変更するのが目的であり、委員が集まって話す場は今後も設けていきます。

・目標に地域とあるが一般的には町内会や区を指すと読める。もう少し広いコミュニティや組織でもよいのではないか。

→分かりにくくて申し訳ありませんが、組織や地域コミュニティを狙っています。

・興味など分かりやすい言葉ではあるが、もう少しポジティブで楽しいイメージのある言葉で表現できるとよい。